

# 外国語科学習指導案

令和7年11月7日（火）4校時  
〇〇中学校2年

## 1 単元名 Unit 5 How Do We Stay Safe? Here We Go! ENGLISH COURSE 2

### 2 本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標（第2学年）

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
はっきりと話されれば、天気予報などの日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。	予定を知らせるメールやイベントの案内などについて、簡単な語句や文で書かれた短い文章の必要な情報を読み取ることができる。	学校行事、休日の計画、日常の出来事などについて、簡単な語句や文を用いて即興で質問したり、伝え合ったりすることができる。	学校行事、休日の計画、日常の出来事などについて、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。	学校行事、休日の計画、日常の出来事などについて、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。
U2、U3、DL2、WT1、WT2	U3、YD1、U4、DL5、YD2、DL7	Let's Talk	U8、Let's Talk	U1、U3、Let's Talk
はっきりと話されれば、観光地の温泉案内やインタビューなどについて、概要をとらえることができる。	新聞記事や観光紹介記事などについて、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。	学校行事や防災などの話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	自分のお気に入りのものや地元のおすすめスポットなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	日記や地元のおすすめスポットなどについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。
U5、DL8、YD3	U1、LR1、U6、U7、U8、LR3	U2、DL1、DL3、DL4、DL6、YD2	YD1、U4、YD3、Story Retelling	U4、U6、U7
はっきりと話されれば、防災グッズについての説明や観光案内情報などについて、短い説明の要点をとらえることができる。	インタビュー記事や説明文などについて、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができる。	ICTやスポーツの話題などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができる。	ICTやスポーツの話題などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができる。	ICTやスポーツの話題などに関して、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。
U4、DL7	LR2、WT2	LR3	LR3	LR3

### 3 単元における指導構想

#### ○教材観

本単元は、Kotaたちが英語の授業で防災ポスターを作成することになり、自然災害から身を守るための備えやしなければならぬ行動について話し合ったり、防災バッグの中身について考えたりする内容となっている。

言語材料としては、助動詞 **must / must not・have to / don't have to・It is ~ (for 人) to+動詞** の原形を扱う。必要なことや注意すべきことを伝える表現や自分の考えを伝える表現も豊かである。

したがって、登場人物たちの対話を参考に、防災について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

#### ○生徒観

本学級の生徒は、小学校での外国語学習の積み重ねにより、英語を聞くことや学んだ表現を用いて話すことに慣れ親しんでいる。その土台を生かし、自分のことについて話す活動や、ペアでの活動を多く取り入れ、繰り返し言語活動に取り組みせてきた。スモールステップで取り組む中で、少しずつではあるが自分のことを相手に伝えようという姿勢が育ってきた。一方で、英語学習への苦手意識が強く、会話を楽しもうとする意欲や粘り強く表現しようとする姿勢には課題が残る。

そこで、本単元では、一学期に総合的な学習の時間で学んできて、なじみのある防災の話題を取り上げ、どうすれば必要な情報や自分の考えが相手に伝わるのかを考えさせながら、対話を継続・発展させる力を養いたい。そして、外国語でのコミュニケーションを通じて人生を豊かにすることのできる生徒を育てたい。

○指導観

本単元は、防災という、社会的であるが生徒にとって身近な話題を扱っており、防災バッグに入れるべきものや非常時にどう行動するかについて話し合う力を養うのに適した内容となっている。

そこで、言語活動として、防災バッグの見本を作り紹介することを想定し、様々な災害が起こったときの対応や非常時に必要なものについてグループで伝え合う活動を行い、「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた指導を行う。場面や状況に応じて慣れ親しんだ語句や表現を活用し、グループの友達に自分の意見がしっかりと伝わるよう、相手の状況を確認しながら対話を進めるよう指導する。そして、コミュニケーションの楽しさや自分の思いが伝わることの喜びに気付かせたい。

単元終末の言語活動としては、外国人にも伝わるような中学生用防災バッグの見本を作ること为目标に、グループで自分の意見を伝え合う活動を行う。目的意識をもって繰り返し対話に取り組ませることで、生徒が自信をもってコミュニケーションを行うきっかけになるようにしたい。そして、相手の意見をより深く理解したり、考えを共有したりすることができるように、さらに対話を継続・発展させ、臆することなく積極的に自分の思いを表現する力を育てたい。

4 単元の目標

防災について外国の人に説明できるように、災害時に必要なものや日頃の備えなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

5 単元の評価規準（「話すこと [やり取り]」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 助動詞must / must not・have to / don't have to・It is ~ (for 人) to+動詞の原形を用いた文の構造を理解している。</p> <p>〈技能〉 災害時に必要なものや日頃の備えなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、助動詞must / must not・have to / don't have to・It is ~ (for 人) to+動詞の原形などの簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。</p>	<p>防災について外国の人に説明できるように、災害時に必要なものや日頃の備えなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。</p>	<p>防災について外国の人に説明できるように、災害時に必要なものや日頃の備えなどについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。</p>

6 指導と評価の計画（9時間）

時間	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	評価			備考
		知	思	態	
1	<p>■単元の目標を理解する。</p> <p>■ストーリーの内容を予測し、おおまかな内容を伝え合う。</p> <p>①単元の目標を確認する。</p> <p>②絵や写真を見て防災について興味をもち、ストーリーの話題について予測したことを伝え合う。</p> <p>③ストーリーを通して聞いて、絵の並び替えを行い、おおまかな内容をつかむ。</p>				<p>に状即わ記 生況しな録 かをていに す見生が残 。届徒、す けのね評 て活ら価 指動いは 導のに行</p>

2	<p>■対話文の内容を捉え、文脈の中で新出文法の意味・形・使い方を理解し、気付いたことを伝え合う。</p> <p>①教科書の対話文を読み、内容を理解する。</p> <p>②対話文で使われている未知の語の意味や助動詞<b>must / must not</b>を用いた文の構造と意味、使い方を理解する。</p> <p>③対話文の内容について気付いたことを伝え合う。</p>			
3	<p>■自然災害から身を守るための方法について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。</p> <p>①教科書の登場人物の対話から、自然災害から身を守るための方法を聞き取る。</p> <p>②自然災害から身を守る方法について、ペアで自分の考えを伝え合う。</p> <p>③ペアで話した内容を書く。</p>			
4	<p>■対話文の内容を捉え、文脈の中で新出文法の意味・形・使い方を理解し、気付いたことを伝え合う。</p> <p>①教科書の対話文を読み、内容を理解する。</p> <p>②対話文で使われている未知の語の意味や<b>have to / don't have to</b>を用いた文の構造と意味、使い方を理解する。</p> <p>③対話文の内容について気付いたことを伝え合う。</p>			
5	<p>■自然災害に備えるために日頃からする必要があることについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。</p> <p>①教科書の登場人物の家族の会話から、する必要があることとないことについて聞き取る。</p> <p>②自然災害に備えるために日頃からする必要があることについて、ペアでやり取りする。</p> <p>③ペアで話した内容を書く。</p>			
6	<p>■対話文の内容を捉え、文脈の中で新出文法の意味・形・使い方を理解し、気付いたことを伝え合う。</p> <p>①教科書の対話文を読み、内容を理解する。</p> <p>①対話文で使われている未知の語の意味や<b>It is ~ (for 人) to+動詞</b>の原形を用いた文の構造と意味、使い方を理解する。</p> <p>③対話文の内容について気付いたことを伝え合う。</p>			
7	<p>■自然災害に備えるための日々の心がけや取り組みについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。</p> <p>①地域の防災セミナーで教科書の登場人物が話した内容を聞きとる。</p> <p>②自然災害に備えるための日々の心がけや取り組みについてについて、特に必要だと思うことをペアでやり取りする。</p> <p>③ペアで話した内容を書く。</p>			
8	<p>■災害時に役立つものについての説明を聞き、どうしてそれが必要なのかについて尋ねたり、相手からの質問に答えたりする。</p> <p>①災害時に役立つものについての説明を聞き、どんなものがどんなときに役立つのかについて聞き取る。</p> <p>②災害時に役立つものについて、何がどんなときに役立つのかについて尋ねたり、相手からの質問に答えたりする。</p>			

記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かす。

9 本時	<p>■防災バッグに入れるべきものについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。</p> <p>①防災バッグに入れるべきものについてグループでやり取りする。</p> <p>②単元目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>	○	○	○	<p>〈活動観察〉</p> <p>・外国の人に向けての中学生版防災バッグの見本を作ることができるように、防災バッグに入れるべきものについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。</p>
後日	パフォーマンステスト クラスで登山に行くためにリュックに入れるべきものについてALTとやり取りする。	○	○	○	

## 7 本時の活動（第9時）

### （1）目 標

外国の人に向けての中学生版防災バッグの見本を作ることができるように、防災バッグに入れるべきものについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

### （2）展 開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の場面	評価方法
2分	1 挨拶をする。	・簡単なやり取りをし、緊張をほぐさせる。		
3分	2 Small Talkを行う。	・自分の意見を話しやすい雰囲気づくりに努める。		
2分	3 本時の目標について知る。	・本時の目標と流れを生徒と確認する。		
	外国の人に向けての中学生版防災バッグの見本を作ることができるように、防災バッグに入れるべきものについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしよう。			
10分	4 防災リュックに入れるべきものについてマッピングする。	・タブレットを活用し、入れるべきものについてメモさせる。 ・どんなときに必要になるかなどを考えさせ、自分の意見とその理由、必要な情報について整理させる。		
26分	5 防災リュックに入れるべきものについてグループで伝え合う。	・グループで対話させる。 ・机間指導を通して、助言や指導を行う。 ・中間指導を行い、説得力のある説明を意識させながら数回取り組ませる。 ・グループ内で良かった点を共有させる。	知 思 態	活動観察
5分	6 振り返りシートに本時の振り返りと単元の振り返りを記入する。	・振り返りシートに本時の振り返りと単元の振り返りを記入させる。 ・学んだことや工夫して活動した点を記入するように伝える。		
2分	7 挨拶をする。	・振り返ったことを全体で共有する。 ・生徒の良かった点を伝える。		

(3) 評価及び指導の例（「話すこと [やり取り]」）

「十分満足できる」と判断される状況(a)	防災リュックに入れるべきものについて、必要な情報や自分の考え、気持ちなどを整理し伝えたり、質問に答えたりし、相づちや質問を付け加えながら、積極的に会話を継続している。
「おおむね満足できる」状況(b)を実現するための具体的な指導	防災リュックに入れるべきものについて、必要な情報や自分の考え、気持ちを伝える表現や、質問したり答えたりする表現を確認し、やり取りを継続できるよう支援する。
「努力を要する」状況(c)と判断した生徒への事後指導	個別指導をして、防災リュックに入れるべきものについて、必要な情報や自分の考え、気持ちを伝える表現や、質問したり答えたりする表現を再度確認し、繰り返し練習しながら、「おおむね満足できる」(b)を達成できるようにする。